

この先も、大好きな絵だけは、描き続けていきたい



Minoru Hirayama

今回紹介する平山實さんは、職場を退職された当時、大きな病気を患いましたが、その後は復帰し、趣味であった絵画に力を注ぎ、今でも多くの作品に取り組みられています。平山さんが描く風景画は、細部にわたる色の表現から、作品中の風景を想像させる魅力があります。各種展覧会に出展しており、千葉県美術展覧会では何度も入選されています。病気にも負けず、趣味から活力を見いだす平山さんに話をうかがいました。

思わぬ病気、絵画との再会

中学、高校時代は美術部に所属していましたが、仕事を始めてから絵はまったく描いていませんでした。平成7年に多古町役場を退職。その年に大きな病気を患い、千葉大病院で手術を受けました。もともとは退職してからどこかに勤めようかと考えていたんですが、こういった事情もあり、それも難しいかと。その時に、妻からNHKの絵画講座が成田市で行われるという話があり受講することにしました。その時の講座の先生が出沼地区出身の羽生智樹先生で、何度か講座を受けている中で、羽生先生の自宅で行われている教室への誘いを受けました。それから

は、住まいがある酒々井町まで月に2回ほど習いに行き、かれこれ20年くらいお世話になっています。

絵画を始めた頃は生物を描いていましたが、今は風景画を描くことが多いです。描いている中で、山の形や木の形、そっくりそのまま描かないで自分の中で、「この方が良いか」と思ったら実際とは変えて描くこともあるんです。

昔と今、体の衰え

以前は車で出かけてはどこか良い風景画のモデルとなる場所はないかと探し歩き、いろんな写真を撮っていました。それこそ手術をした当時、担当の医師からは「退院したらたくさん歩いてください」と言われていたので、体力の回復のためにも思っただけで毎日歩くようにしていました。しかし、少し前から近くを散歩しているだけですぐに息が切れるようになってきて、途中で休憩しながらという状態になり、それが体の具合が悪くなってきた兆しだったのかもしれない。最近はどうも、ほとんど外を歩けなくなってしまいました。回覧板を隣の家に持っていくだけでも杖を持って出歩いています。だからね、元氣じゃないんです(笑)

その中でもやれることはある

ただ、こういった状況の中でも、絵を描くことはこれからも続けたいと思っています。単純に、絵を描くことが好きなんです。これまでみたいには大きい作品は描けなくなるとは思いますし、外にもなかなか出られなくなってしまうかもしれませんが、身近な生物や草花などを描いていければと思っています。それであれば遠くに出かけなくても良いです。

この間、目の手術をしたこともあり、町の文化祭に出展するには会場準備を自分たちで行わなければいけなかったのが参加は難しいと多古町美術会会長の郡司さんに話しました。ところが、作品さえ用意してくればこちらで搬入と準備をしておくから大丈夫だと言ってくれましたね、本当にありがたい話です。

現在はあまり歩けなくなってしまいました。絵なら描くことはできます。与えられた中で自分の楽しみであったり、生きがいを見いだすこと、それが大切なことなのかもしれませんね。



平山 實さん (81歳・水戸)
元役場職員。各種展覧会や多古中央病院でも作品を展示している。
多古町美術会会員。平成29年2月号の「ギャラリー TAKO」で作品を紹介。

サポートのおかげで

今取り掛かっている作品は、横芝光町に最近まであった、かやぶき屋根の家がモデルで、近頃だとあまり見かけないし魅力的だったので描いてみたいと思いました。妻のサポートを受けながら完成を目指しています。



「多古元氣人」では、年齢・性別・分野を問わず、生き生きと元気に活動している人を紹介していきます。これからも「たこげんじん」を発見したいときは、皆さんにご紹介します。